

どう見分ける? どう治す? ぶどう膜炎診療

2025年

日時

4月19日(土)

11:50~12:50

会場

第10会場

東京国際フォーラム G409

●本ランチョンセミナーは事前予約制です。詳細は総会HPをご確認ください。

※事前予約は参加登録マイページより可能です。

※事前予約をしていない場合は、当日整理券をご利用いただけます。

事前予約期間：2月14日(金)~3月14日(金)

配付時間：4月19日(土) 7:15~11:20

座長

後藤 浩 先生 東京医科大学 名誉教授

ぶどう膜炎の原因は細菌やウイルスなどによる感染性と、自己免疫や自己炎症などの関与が示唆されるVogt-小柳-原田病、ベーチェット病などの非感染性の病態に分類されます。その他にも様々な全身性炎症性疾患の眼局所症状として発症する場合があります。ぶどう膜炎に限った話ではありませんが、的確な診断にもとづいた適切な治療が行われないと重篤な視機能低下に至ることもあります。この正体のつかみどころがないぶどう膜炎の診療には、苦手意識を持たれている先生方は少なくないと思います。

本セミナーでは臨床の第一線でぶどう膜炎診療に日夜奮闘されているお二人のエキスパートの先生に、豊富な臨床経験をもとにしたぶどう膜炎の鑑別のポイントと、非感染性ぶどう膜炎を中心とした治療のエッセンスについて、わかりやすくご講演いただきます。ぶどう膜炎診療のスキルアップに繋がるセミナーですので、是非とも多くの先生方のご参加をお待ちしております。



講演
1

ぶどう膜炎の鑑別のポイント

大黒 伸行 先生

地域医療機能推進機構大阪病院 眼科診療部長



講演
2

非感染性ぶどう膜炎治療に必要なバランス感覚
~効果とリスクを正しく判断する~

楠原 仙太郎 先生

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 講師



どう見分ける? どう治す? ぶどう膜炎診療

日時 2025年 4月19日(土) 11:50~12:50

会場 第10会場 東京国際フォーラム G409

●本ランチョンセミナーは事前予約制です。
詳細は総会HPをご確認ください。

※事前予約は参加登録マイページより可能です。
事前予約期間: 2月14日(金)~3月14日(金)

※事前予約をしていない場合は、当日整理券をご利用いただけます。
配付時間: 4月19日(土) 7:15~11:20

座長

後藤 浩 先生 東京医科大学 名誉教授

【略歴】 1984年 東京医科大学 卒業
1988年 南カルフォルニア大学 Doheny Eye Institute 研究員
1993年 東京医科大学眼科 講師
2002年 東京医科大学眼科 助教授

2006年 東京医科大学眼科 教授
2007年 東京医科大学眼科 主任教授
2025年 東京医科大学 名誉教授



講演
1

ぶどう膜炎の鑑別のポイント

大黒 伸行 先生 地域医療機能推進機構大阪病院 眼科診療部長

【略歴】 1988年 大阪大学医学部卒業
1989年 大阪通信病院(現 第2警察病院) 眼科医師
1995年 八尾市立病院 眼科副医長
1996年 ハーバード大学眼免疫研究所 研究員
1998年 大阪大学医学部眼科学教室 助手

2002年 大阪大学医学部眼科学教室 講師
2006年 同 准教授
2010年 大阪厚生年金病院眼科主任部長
2014年 地域医療機能推進機構大阪病院(旧大阪厚生年金病院) 眼科診療部長



ぶどう膜炎診療で最も重要なことは「感染性疾患か否か」を判断することだと思います。

今、目の前に「前房蓄膿を伴った高度の前眼部炎症」の患者さんが座っています。急性前部ぶどう膜炎なのか? ベーチェット病なのか? あるいは内因性眼内炎なのか? このような状況は誰もが経験することではないでしょうか。そして、その判断は数時間以内に下さなければなりません。なぜならば、感染性であれば ASAP (as soon as possible) が求められるからです。

今回の講演では、ぶどう膜炎の鑑別、特に感染性ぶどう膜炎の見分け方について、演者の実践しているところをお話したいと思います。これが正しいかどうか、皆さんのお役に立てるかどうか、それは講演を聞いて各先生方がご判断いただければ幸いです。

講演
2

非感染性ぶどう膜炎治療に必要なバランス感覚 ~効果とリスクを正しく判断する~

楠原 仙太郎 先生 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 講師

【略歴】 1998年 3月 神戸大学医学部卒業
2004年 4月 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター(幹細胞研究グループ)リサーチ・アソシエイト
2007年 4月 兵庫県立尼崎病院 眼科医長
2008年 4月 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 助教

2012年 6月 神戸大学若手教員長期海外派遣制度により ロンドン大学に長期海外出張
2014年 5月 同 帰国
2016年 12月 神戸大学医学部附属病院 眼科 講師
2018年 4月 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座眼科学分野 講師



非感染性ぶどう膜炎患者を前に「どうやって治療しようか」と悩むことは少なくない。世界中のぶどう膜炎専門医を対象に行われた最新のアンケート調査¹⁾では、非感染性ぶどう膜炎の治療において、「長期的な糖質コルチコイド(ステロイド)の全身投与を避け、免疫調整薬や生物学的製剤を代替治療として使用する」という傾向が明らかになった。しかしながら、具体的な治療薬の選択に関してはばらつきがあり、専門家であっても治療プランに悩む現状が浮き彫りになっている。治療法を選択する際に重要なポイントは、各治療法の特徴を正確に理解し、その効果とリスクを局面ごとに適切に評価することである。これにより、短期的および長期的な治療プランの中で、最適なタイミングで最適な治療法を選択することが可能になる。本講演では、不安を抱える患者の前で自信を持って治療プランを提案できる、そんな眼科医になるための TIPS を紹介したい。